日本光電は、病魔の克服と健康増進に先端技術で挑戦することで、社会に必要な価値を創造・提供し続けます。

日本光電は、経営理念「病魔の克服と健康増進に先端技術で挑戦することにより世界に貢献すると共に社員の豊かな生活を創造する」の実現を目指し、ヘルスケアの課題に対し、革新的で高品質な医療機器で解決すべく挑戦してきました。

これまでに開発した医療機器は、世界120ヵ国以上の医療現場でお使いいただき、多くの患者さんを救ってきました。

日本光電は「医療現場に根差した技術開発力」「国内外の幅広い顧客基盤」「高品質の製品・サービスとそれを支える開発・生産・販売・サービス体制」「長年にわたって培われたブランド力」という強みを活かし、医療従事者や患者さんにとっての価値を創造・提供し続けていきます。

Contents

会社の全体像

日本光電の企業価値創造モデル	1
目次	2
日本光電の企業価値創造ストーリー	3
財務・非財務サマリー	9
財務・非財務ハイライト	11
社長インタビュー	13
地域別の概況	17
商品群別の概況	19

CSR（医療）

お客様との関わり	21

CSR（環境）

環境との関わり	23

CSR（企業活動）

お取引先様との関わり	27
地域社会との関わり	28
従業員との関わり	29
株主・投資家の皆様との関わり	31

コーポレート・ガバナンス

マネジメントチーム	33
社外取締役メッセージ	35
コーポレート・ガバナンスの充実	36
コンプライアンスの徹底	38
リスクマネジメントの強化	40
会社情報	42

社会課題

患者さん　お客様　お取引先様　株主・投資家の皆様　従業員　環境　地域社会

社会

企業価値向上

財務資本
- 持続的成長への成長資金
- 株主還元

人的資本・知的資本
- 雇用創出
- 人財の活躍成長

社会資本
- 医療の安全、質の向上
- 患者さんのQOLの向上
- 地域社会への貢献

自然資本
- 環境負荷の低減

日本光電

経営理念

病魔の克服と健康増進に先端技術で
挑戦することにより
世界に貢献すると共に
社員の豊かな生活を創造する

2020年の目指すべき将来像

- 世界初の革新的技術の確立
- 世界最高品質の確立
- グローバルシェアNo.1の獲得

日本光電の強み

- 医療現場に根差した技術開発力
- 国内外の幅広い顧客基盤
- 高品質の製品・サービスとそれを支える開発・生産・販売・サービス体制
- 長年にわたって培われたブランド力

事業活動

高品質な製品・サービスの提供

6つの重要課題
- 地域別事業展開の強化
- コア事業のさらなる成長
- 新規事業の創造
- 技術開発力の強化
- 世界トップクオリティの追求
- 企業体質の強化

社会への提供価値

病魔の克服と健康増進に
先端技術で挑戦することにより
世界に貢献すると共に
社員の豊かな生活を創造する



1951年の創業以来、病魔の克服と健康増進に先端技術で挑戦し、社会に価値を提供することで日本光電は着実に成長してきました。



1951年8月

「医学」と「工学」の接点を求めて、わずか12名で創業

日本光電工業株式会社設立

創業者 荻野 義夫は、医学と工学の接点を研究することから人の命を救うことができれば、という強い想いに動かされ、日本光電を設立しました。創業時からの「病を癒す…それは主義や国境を超えるもの。どんなに情熱を注ぎ込んでも悔いはない」という信念のもと、現在も医療現場に根ざした技術開発に取り組んでいます。



1974年3月

世界中の医療現場で使用される パルスオキシメータ

パルスオキシメータの原理に関する国内特許を出願

指先または耳たぶにセンサをはめるだけで動脈血中の酸素飽和度（SpO_2）を測定できるパルスオキシメータの原理を発明し、翌1975年に世界初の製品を発売しました。「痛みを伴わず」「リアルタイムに」「連続して」測定できるという画期的な技術は現在、手術中の事故防止、新生児の管理など、世界中のさまざまな場面で活躍しています。

1950年代 | 1960年代 | 1970年代 | 1980年代 | 1990年代 | 2000年代 | 2010年代 | 2017

創業者 荻野 義夫



1951年12月
世界初の全交流直記式脳波計 ME-1Dを発売



1955年6月
世界初の電子管記録式心電計 MC-1Cを発売



1960年9月
日本初の多用途監視記録装置（ポリグラフ）RM-150を発売

1961年11月
東京証券取引所第二部に上場

1965年8月
日本初の直流式心室細動除去装置（デフィブリレータ）MDV-1を発売

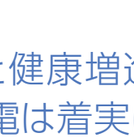


1967年4月
日本初の重症患者監視装置 ICU-80を発売



1970年度 44億円

1972年3月
自動血球計数器 MEK-1100を発売



1979年11月
米国に日本光電アメリカ(株)を設立

1984年2月
世界初のオールテレメータ化分娩監視装置 OMF-7201を発売



1985年2月
ドイツに日本光電ヨーロッパ(有)を設立

1985年4月
世界初の呼吸総合モニタ OMR-7101を発売



売上高の推移

2007年2月
第1回東京マラソン2007から毎年、AEDでサポート



2016年度 1,662億円

2009年6月

唯一の国産AED※メーカとして 心肺蘇生とAEDの普及に注力

国産の自動体外式除細動器 AED-2100を発売

2004年7月に一般市民によるAED（自動体外式除細動器）の使用が可能になり、日本光電では心肺蘇生とAEDの講習会をスタートしました。当社AEDの出荷台数は40万台以上を数えており、除細動による救命件数も着実に増えています。

※ AED（Automated External Defibrillator）：自動体外式除細動器。心臓の筋肉が痙攣をおこし、血液を流すポンプ機能を失った状態（心室細動）の心臓に対して電気ショックを与え、正常なリズムに戻すための医療機器



1995年1月
ISO9001認証取得

1996年2月
シンガポールに日本光電シンガポール(株)を設立

2003年2月
ISO13485認証取得

2013年7月
ヘモグロビンA1cとC反応性蛋白を測定する臨床化学分析装置 CHM-4100を発売



1990年2月
中国に合弁会社 上海光電医用電子儀器(有)を設立

2001年10月
富岡工場 ISO14001認証取得

2014年5月
尿失禁を伴う過活動膀胱患者（成人女性向け）の症状改善を目的とする磁気刺激装置 TMU-1100を発売



2004年7月
世界初の心電図、呼吸、SpO_2、非観血血圧のワイヤレスモニタリングが可能な送信機 ZS-940Pを発売



2012年11月
米国のデフィブテック LLCの出資持分を取得して子会社化



1992年6月
呼称を「日本光電」に制定

2010年4月

グローバルリーダとして世界の医療を変える

2020年の目指すべき将来像として「世界初の革新的技術の確立」、「世界最高品質の確立」、「グローバルシェアNo.1の獲得」を掲げた長期ビジョンを策定

2003年5月
世界初のメインストリーム式で気管挿管していない患者さんに使用できるCO_2センサを発売



2016年7月
救急領域での迅速な脳波測定を可能にしたテレメトリ式脳波計 EEGヘッドセット AE-120Aを発売

救急現場、検査、診断、治療、リハビリ、在宅医療…。日本光電の事業・製品は、医療現場を幅広くサポートし、高い評価をいただいています。

プレホスピタル

一刻を争う救急現場に対応する医療機器で救命率アップに貢献

救急車やドクターヘリなど病院前救急医療で使用する機器



救急車搭載モニタ



半自動除細動器

検査、診断

高い技術が生んだ、より正確で「痛くない、負担が少ない」検査装置

脳波検査や心電図検査など病院内の検査室で使用する機器



脳波計



心電計

手術、治療

高度医療による手術や治療に不可欠な医療機器を開発・導入

病院内で手術や治療を行う時に使用する機器



デフィブリレータ



人工呼吸器

集中治療室、病棟

入院中の患者さんの安全・安心をサポート

病室やナースステーションなど病棟で使用する機器



生体情報モニタ



バイタルサインテレメータ

在宅医療

日常生活の中での健康管理や検査で、健康増進に貢献

ご家庭や訪問看護ステーションなど医療機関の外で使用する機器



長時間心電図記録器



みまもりテレケアシステム

駅や学校など身近なところに AED（自動体外式除細動器）

AEDと心肺蘇生の普及で救える大切な命

日本光電の強み

国内シェアNo.1の製品が多数あります

医療現場に根差した技術開発力で、数々の革新的な医療機器・技術を生み出してきました。日本光電には、シェアNo.1の製品が多数あります。

- **脳波計**
  国内市場の80%という圧倒的なシェアを誇る、世界的な脳波計メーカです。



- **生体情報モニタ**
  医療の安全に貢献する生体情報モニタの国内トップメーカです。



- **AED**
  国内トップシェアであり、日本国内でAEDを開発・製造しているのは、当社しかありません。



- **パルスオキシメータ**
  指先にセンサを装着するだけで血液中の酸素飽和度（SpO_2）を測定できる技術を世界に先駆けて開発しました。



日本光電の強み

お客様から高い評価をいただいています

「日本光電の製品を買ってよかったとお客様にのちのちまで満足していただける状態を保つこと」という品質方針を社員全員が共有しています。研究・開発だけでなく、生産、販売、アフターサービスまでの全てを自社で行い、高品質と安全性を確保することで、お客様の信頼に応えてきました。日本光電の製品は120ヵ国以上の医療現場で使用され、世界中のお客様から高い評価をいただいています。

米国で10年連続顧客満足度No.1を獲得

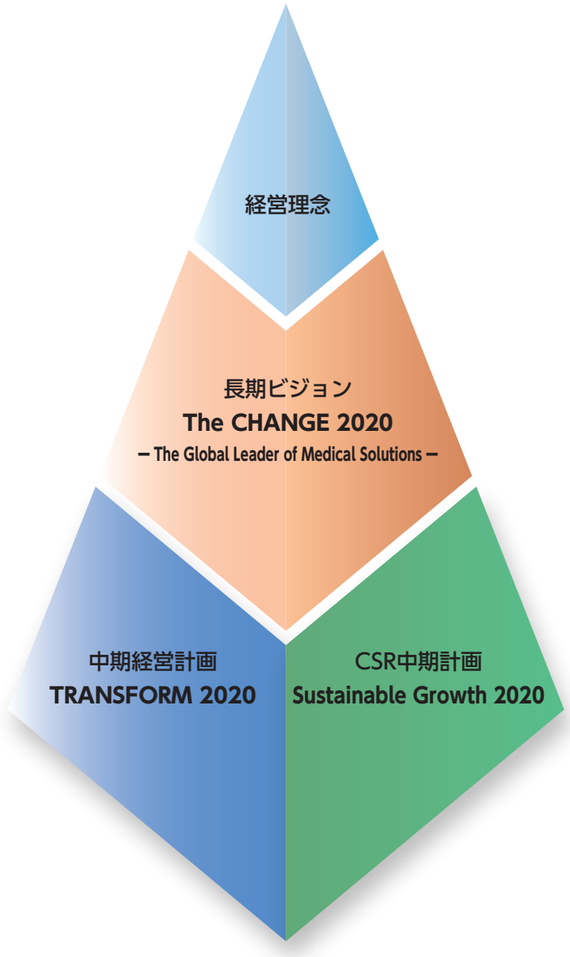
米国現地法人である日本光電アメリカは、米国の市場調査会社MD Buyline社が2016年12月期（Q4）に発表した生体情報モニタの顧客満足度調査において、10年連続トップを獲得しました。



日本光電は、経営理念・長期ビジョン実現のため中期経営計画に取り組み、社会に価値を提供するとともにグループの持続的発展と企業価値の向上を目指します。

経営理念

病魔の克服と健康増進に先端技術で
挑戦することにより
世界に貢献すると共に
社員の豊かな生活を創造する



長期ビジョン

The CHANGE 2020
—The Global Leader of Medical Solutions—
2020年の目指すべき将来像

- 世界初の革新的技術の確立
- 世界最高品質の確立
- グローバルシェアNo.1の獲得

中期経営計画

TRANSFORM 2020

基本方針

❶ 高い顧客価値の創造
❷ 組織的な生産性の向上

6つの重要課題

- 地域別事業展開の強化
- コア事業のさらなる成長
- 新規事業の創造
- 技術開発力の強化
- 世界トップクオリティの追求
- 企業体質の強化
- 人財育成・組織風土改革

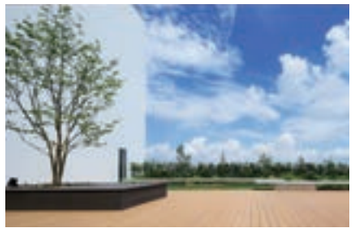
CSR中期計画

Sustainable Growth 2020

医 療	環 境	企業活動
推進方針 1	推進方針 2	推進方針 3
製品・サービスを通じて病魔の克服と健康増進に貢献する	あらゆる企業活動を通して地球環境の保全と質的向上に取り組む	企業活動全般を通じてCSR基盤を強化する




製品年表


屋上庭園


カフェテリア

『夢と革新を育む創造の場』で、革新的な技術・製品開発に取り組みます。

日本光電が長期ビジョンで目指す「世界初の革新的技術の確立」「世界最高品質の確立」「グローバルシェアNo.1の獲得」の実現に向けて、東京都内と埼玉県内に分散していた製品開発に関わる部門を移転・集約し、2016年10月、埼玉県所沢市に総合技術開発センタが稼働しました。

総合技術開発センタには、製品開発に必要な試験設備を整備したほか、技術者が気軽にコミュニケーションできるスペースを設け、開発効率の一層の向上と各開発部門の連携強化を図っています。

「夢と革新を育む創造の場」として、分野を超えた柔軟な発想で革新的な技術・製品を生み出すため、開発環境の活性化を続け、当社の強みである技術力をさらに高めて、これからも医療従事者、患者さんに喜んでいただけるような製品を開発してまいります。

1階開発試験室スロープ壁面には製品年表が描かれており、右側(奥)にはこれから総合技術開発センタで開発される製品を描いていきます。またコミュニケーションの場として、屋上庭園とカフェテリアを設けました。

新製品

救急脳波測定用 EEGヘッドセット AE-120A　2017年度グッドデザイン賞受賞


EEGヘッドセット AE-120A

近年、救急現場において、原因不明の意識障害患者や、非けいれん性てんかん重積状態※の患者に対する脳波測定のニーズが高まっていますが、電極装着の煩雑さなどの理由により、熟練した医療従事者が必要なことが課題となっていました。このような医療現場の課題に対し、日本光電では初期治療を担当する救急医でも簡単かつ迅速に脳波を測定し、「非けいれん性てんかん重積状態」を早期に発見できるよう、EEGヘッドセットを開発しました。迅速な診断・治療が可能になることで、患者さんの生命予後改善、入院期間の短縮に貢献してまいります。

※ 非けいれん性てんかん重積状態（Non convulsive Status Epileptics:NCSE）：原因不明の意識障害の一つ。けいれんを伴わないため、発作が起きていることが分かりにくい。早期の診断・治療が重要。